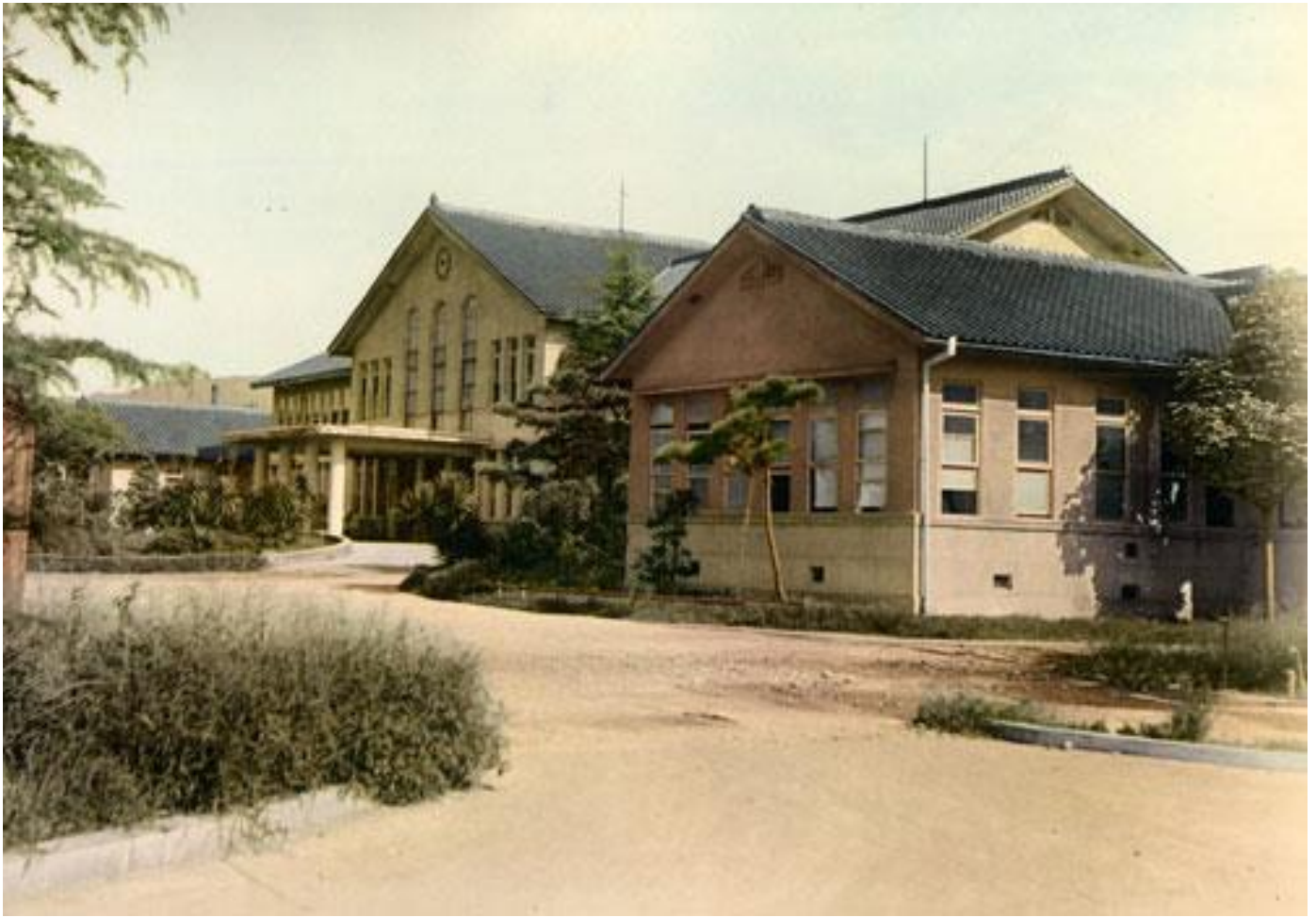
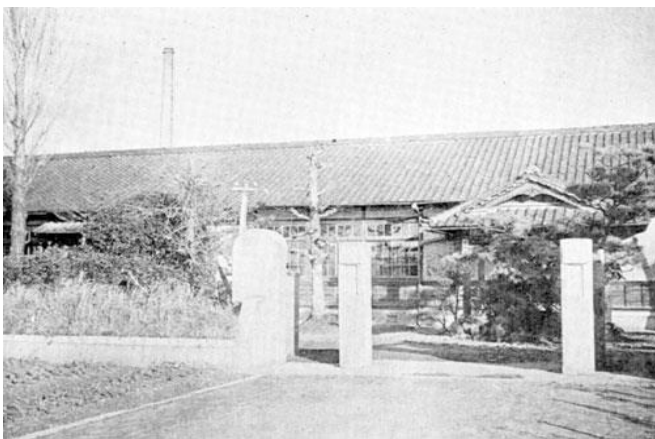


## 奈良医専 ⇒ 奈良医大 今昔写真



開学当初の附属病院（旧八木協同病院）の正面



小房の校舎 周囲は田んぼ 昭和 22 年



八紘寮に間借りのごころ 奥に見えるのは畝傍山

開講 70 周年整形外科の記念 CD に収載された写真で、転載の許可を頂きました。  
創立 80 年になりますと、若い人にはとても珍しく貴重な奈良医大の写真ばかりです。  
せっかくの機会ですので同窓の皆様と供覧したいと思います。

## 航空写真に見る母校の変遷



昭和34年。

大学の周りには空き地が目立つ。奈良医大は、このような八木町のはずれに建設されたが、これが後に幸運に繋がった。

古い日本の多くの医学部は、市街の中心部に建設された。これは附属病院の立地の都合である。しかし、その後の医学の発展で広大な敷地が必要となり、各大学は狭隘なキャンパスに苦しんだ。奈良医大の東隣と南隣は、ご覧の状況で、奈良医大は必要に応じてキャンパスを拡大することが可能であった。



昭和40年頃

進学の校舎が完成し、小房の校舎が移転した。これでキャンパスは、すべて四条町に統合された。

本館、本館前のロータリー、進学校舎、旧図書館、旧基礎校舎、旧焼却所、旧西病棟の木造建物が見える。

進学校舎の南側には、体育小屋（かまぼこ型プレハブ建物）の一部が見える。



臨床研究棟（旧基礎校舎）が撤去される前に撮影された。

大講堂、基礎校舎、新病棟などが次々に建設され、大学としての形を整えた。キャンパスの南にある貯水池は、昔のまま存在している。

高架道路は1970年頃、部分的に建設され、2000年ごろ全面開通した。高架道路の南にグランドが見えるが、この整備に伴い、藤原京の跡が見つかり、その下からは古墳が見つかった。